

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ひまわり学園		
○保護者評価実施期間	令和7年11月28日		令和7年12月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 34名
○従業者評価実施期間	令和7年11月28日		令和7年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの特性に合わせた環境設定を行えること。	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの特性に合わせ、保育室の仕様を変更した。お子さんの状態に合わせて日々調整を行っている。 ・活動に合わせて部屋の配置を変更している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんが自立して動けるような視覚支援の設定。
2	関係機関や保護者との連携をとる体制があること。 相談支援センターが併設されており、相談体制が整っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に保護者の方とお子さんの様子について情報のやり取りを行っている。また、クラス相談会ではご家庭での様子や日々の困り感について確認している。 ・受診や就学等、関係機関との連携を図っている。 ・お子さんの様子については相談支援専門員と情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のお子さんの様子について、写真や動画等でお伝えする機会を設ける。また、行事の様子の写真など、玄関に掲示し、園での様子が今よりもわかるようにする。 ・今後も、関係機関と連携を図り、お子さんの成長と一緒にサポートする体制を整える。
3	子どもの発達状況や特性に合わせた支援の提供を行う体制がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・療法士による、個別リハビリの実施。また、必要に応じた小集団でのリハビリの実施。 ・必要に応じて、発達検査の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマルなアセスメントを行い、より質の高い支援を提供していく。 ・クラス会議を行っているが、今後も継続し、日々の支援の振り返りや検討を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	標準化されたアセスメントの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーマルなアセスメントツールを活かしきれていない。 ・アセスメント様式が不十分なところがあり、見直しが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じた発達検査の実施。 ・アセスメント様式の変更を行い、多職種でのアセスメントを行うこと。
2	併設園との交流の機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・予定として決まっている行事等での交流はあったが、それ以外での交流の機会が少なかった。職員間の交流やお互いの情報が少ないことも要因と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ会議の実施。 ・移行支援も視野にいれた、クラスの交流。
3	活動プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さん一人ひとりの発達状況が異なるため、一人ひとりが楽しめる活動を考えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・併設園での取り組みを取り入れる等の工夫。 ・月間プログラムの作成。 ・アセスメントをもとにお子さん一人ひとりに合わせたプログラムの計画と実施。 ・プログラムや取り組んでいることを見える化する。